

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2017-153697

(P2017-153697A)

(43) 公開日 平成29年9月7日 (2017. 9. 7)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
A 6 1 F 13/49 (2006.01)	A 6 1 F 13/49 3 1 5 Z	3 B 2 0 0
A 6 1 F 13/494 (2006.01)	A 6 1 F 13/494 1 1 1	

審査請求 未請求 請求項の数 8 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願2016-39337 (P2016-39337)
 (22) 出願日 平成28年3月1日 (2016. 3. 1)

(71) 出願人 000122298
 王子ホールディングス株式会社
 東京都中央区銀座4丁目7番5号
 (74) 代理人 110001243
 特許業務法人 谷・阿部特許事務所
 (72) 発明者 園田 彰
 東京都中央区銀座五丁目12番8号 王子
 ネピア株式会社内
 Fターム (参考) 3B200 AA01 BA12 BA16 CA08 DA02
 DA04 EA12 EA23

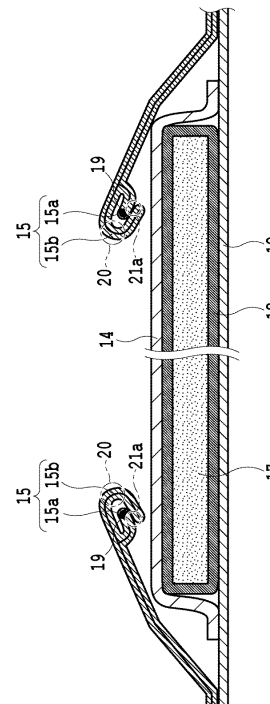
(54) 【発明の名称】 吸収性物品

(57) 【要約】

【課題】フィット感を保持しつつ、着用者の肌に対する締め付けを低減させるための吸収性物品を提供する。

【解決手段】吸収性物品10は、立体ギャザー15の自由端側が相互に分岐して形成される第1の先端縁部15aおよび第2の先端縁部15bと、前記第1の先端縁部15aにおいてシート部材で挟まれるように、前記吸収体13の長手方向に沿って配置される弾性部材19と、を有し、前記第2の先端縁部15bのうち少なくとも着用者の肌に接触可能な部位には弾性部材が配置されず、前記第1の先端縁部15aおよび前記第2の先端縁部15bは、前記第1の先端縁部15aのうち前記弾性部材19を挟んだ部分と前記肌とで、前記第2の先端縁部15bを挟むようにそれぞれ構成されている。

【選択図】 図4



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

液不透過性のバックシートと、前記バックシートに接合される液透過性のトップシートと、前記バックシートと前記トップシートとの間に配される吸収体と、シート部材で構成され前記吸収体の長手方向に沿って設けられる一対の立体ギャザーと、を備える吸収性物品であって、

前記立体ギャザーの自由端側が相互に分岐して形成される第 1 の先端縁部および第 2 の先端縁部と、

前記第 1 の先端縁部において前記シート部材で挟まれるように、前記長手方向に沿って配置される弾性部材と、を有し、

前記第 2 の先端縁部のうち少なくとも着用者の肌に接触可能な部位には弾性部材が配置されず、

前記第 1 の先端縁部および前記第 2 の先端縁部は、前記第 1 の先端縁部のうち前記弾性部材を挟んだ部分と前記肌とで、前記第 2 の先端縁部を挟むようにそれぞれ構成されていることを特徴とする吸収性物品。

【請求項 2】

前記第 2 の先端縁部には、前記第 2 の先端縁部を折り返す折り返し部が設けられることを特徴とする請求項 1 に記載の吸収性物品。

【請求項 3】

前記第 2 の先端縁部は、前記第 1 の先端縁部より長いことを特徴とする請求項 1 または請求項 2 に記載の吸収性物品。

【請求項 4】

前記第 2 の先端縁部と前記立体ギャザーとが重なる部分の少なくとも一部を接着する第 1 の接着部をさらに有することを特徴とする請求項 1 から請求項 3 のいずれか一項に記載の吸収性物品。

【請求項 5】

前記第 1 の接着部は、前記重なる部分の全域を接着することを特徴とする請求項 4 に記載の吸収性物品。

【請求項 6】

前記第 2 の先端縁部において前記シート部材で挟まれるように、前記長手方向に沿って配置される弾性部材をさらに有することを特徴とする請求項 1 から請求項 5 のいずれか一項に記載の吸収性物品。

【請求項 7】

液不透過性のバックシートと、前記バックシートに接合される液透過性のトップシートと、前記バックシートと前記トップシートとの間に配される吸収体と、シート部材で構成され前記吸収体の長手方向に沿って設けられる一対の立体ギャザーと、を備える吸収性物品であって、

前記立体ギャザーの自由端側において、前記シート部材で挟まれるように、前記長手方向に沿って配置される弾性部材と、

前記立体ギャザーのうち前記弾性部材を挟んだ部分と着用者の肌とで前記シート部材を挟むように、且つ、前記挟んだ部分を前記シート部材でさらに挟むように、前記立体ギャザーの自由端側を折り返す折り返し部とを有することを特徴とする吸収性物品。

【請求項 8】

前記立体ギャザーの前記長手方向の端部において、前記一対の立体ギャザーの対向する面と、前記トップシートと、を接着する第 2 の接着部をさらに有することを特徴とする請求項 1 から請求項 7 のいずれか一項に記載の吸収性物品。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

10

20

30

40

50

本発明は、吸収性物品に関し、より詳細には、立体ギャザーによる肌への締め付けを低減させるため、立体ギャザーの形状に改良を施した吸収性物品に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、排出された体液（以下、単に「液体」とも言う）を有効に堰き止めて、外部に漏らさないための一对の立体ギャザーが吸収体の長手方向に沿って設けられた使い捨ておむつ（以下、単に「おむつ」とも言う）等の吸収性物品が広く知られている。

【0003】

シート部材で構成された立体ギャザーの先端部には糸ゴムなどの弾性部材が吸収体の長手方向に沿って配置され、着用状態において立体ギャザーの起立を促し、液体を堰き止めることを図っている。一方、立体ギャザーの先端部は、着用者の肌に直接接触する機会が多く、立体ギャザーの弾性部材による肌に対する締め付けが生じる可能性も考えられる。

10

【0004】

そこで、立体ギャザーのうち、弾性部材が配置されたシート部材を立体ギャザーの起立方向に延出させた構成が、例えば、特許文献1に開示されている。この構成により、着用者の肌に接触する部分が、延出したシート部材となり、肌に対してソフトな感触を与え、肌に対する締め付けの低減を図っている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0005】

20

【特許文献1】特開2012-200365号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

しかしながら、特許文献1に記載の吸収性物品では、例えば、着用者が横になったり運動したりした場合に、上記延出したシート部材が吸収体側またはその反対側に倒れ、着用者の肌に対して一定の位置を維持することが出来ない結果、フィット感が悪化し、立体ギャザーとして機能しない場合があった。そのため、延出したシート部材の形状については改良の余地がある。

30

【0007】

本発明の目的は、フィット感を向上させつつ、着用者の肌に対する締め付けを低減させるための吸収性物品を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0008】

本発明による吸収性物品は、液不透過性のバックシートと、バックシートに接合される液透過性のトップシートと、バックシートとトップシートとの間に配される吸収体と、シート部材で構成され吸収体の長手方向に沿って設けられる一对の立体ギャザーと、を備える吸収性物品であって、立体ギャザーの自由端側が相互に分岐して形成される第1の先端縁部および第2の先端縁部と、第1の先端縁部においてシート部材で挟まれるように、長手方向に沿って配置される弾性部材と、を有し、第2の先端縁部のうち少なくとも着用者の肌に接触可能な部位には弾性部材が配置されず、第1の先端縁部および第2の先端縁部は、第1の先端縁部のうち弾性部材を挟んだ部分と肌とで、第2の先端縁部を挟むようにそれぞれ構成されていることを特徴とするものである。

40

【発明の効果】

【0009】

本発明によれば、吸収性物品のフィット感を保持しつつ、着用者の肌に対する締め付けを低減することが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【0010】

【図1】本発明の一実施形態に係るおむつの一例の外観において、正面側から見た斜視図

50

である。

【図 2】図 1 に示すおむつの模式的な分解斜視図である。

【図 3】本発明の一実施形態に係る、伸張状態のおむつをトップシート側から見た平面図である。

【図 4】図 3 における I V - I V 線断面図である。

【図 5】図 3 における V - V 線断面図である。

【図 6】第 1 の接着部を介して接着する前の第 1 の先端縁部および第 2 の先端縁部を垂直に起立させたときの長さの相互関係について説明するための図である。

【図 7】立体ギャザーの断面形状の例を示す図であり、(a) は立体ギャザーの自由端側を分岐させ且つ折り返したものの、(b) は立体ギャザーの自由端側を分岐させたものの、(c) は立体ギャザーの自由端側を折り返して巻き込んだものをそれぞれ表す。

10

【発明を実施するための形態】

【 0 0 1 1 】

以下、図面を参照しながら本発明を実施するための形態を詳細に説明する。

【 0 0 1 2 】

本発明の実施形態に係る吸収性物品は、立体ギャザーのうち弾性部材を挟んだ部分が着用者の肌に直接触れないよう、当該挟んだ部分がシート部材で覆われるように構成される。この構成により、配置された弾性部材が複数のシート部材に覆われた状態で着用者の肌に当接して固定される結果、フィット感を保持しつつ、着用者の肌に対する締め付けを低減することが可能となるものである。

20

【 0 0 1 3 】

まず、本発明を展開型使い捨ておむつに応用した一実施形態を以下に説明する。

【 0 0 1 4 】

< 構成 >

図 1 に本発明の一実施形態に係るおむつの一例の外観において、正面側から見た斜視図を示す。本実施形態に係るおむつ 1 0 は、展開型使い捨ておむつであり、前身頃領域 1 0 F と、後身頃領域 1 0 R と、これら前身頃領域 1 0 F および後身頃領域 1 0 R をつなぐ股下領域 1 0 C とを有する。また、着用時に前身頃領域 1 0 F と後身頃領域 1 0 R とで着用者のウエストの部分を取り囲むウエスト周り開口部 1 0 W が形成されている。同様に、前身頃領域 1 0 F および後身頃領域 1 0 R の下端部と股下領域 1 0 C とで着用者の両脚の太股部分を取り囲む左右一対の脚周り開口部 1 0 L が形成されている。

30

【 0 0 1 5 】

着用時に前身頃領域 1 0 F は、着用者の腹側に位置し、後身頃領域 1 0 R は着用者の背側に位置する。そして、着用時に股下領域 1 0 C は、着用者の股下を覆い、左右一対の脚周り開口部 1 0 L に、着用者の脚がそれぞれ通された形となる。したがって、脚周り開口部 1 0 L は、着用者の両脚の付け根から太股あたりのいずれかに位置することとなる。

【 0 0 1 6 】

仮想線 P は、おむつ中央部において腹側から背側に向かって、股下部分を通して延びるものである。具体的には、仮想線 P は、例えば、おむつのウエスト側を上、股下側を下として定義すると、おむつ表面に沿って、かつ上下方向に延びると共に、股下部分を経由して、背側においても上下方向に延びるものである。

40

【 0 0 1 7 】

おむつ 1 0 の外側に位置するカバーシート 1 1 の後身頃領域 1 0 R の左右両端縁部には、着用時に前身頃領域 1 0 F の左右両端縁部に重ね合わせてこれらをつなぎ、脚周り開口部 1 0 L を形成し得る左右一対のファスニングテープ 1 0 A が接着されている。このファスニングテープ 1 0 A は、前身頃領域 1 0 F のカバーシート 1 1 上に接着されたフロントパッチシート 1 0 B に対して繰り返し剥離可能に接合される。

【 0 0 1 8 】

図 2 は、図 1 に示すおむつ 1 0 の模式的な分解斜視図であり、図 3 は、本発明の一実施形態に係る、伸張状態のおむつ 1 0 をトップシート 1 4 側から見た平面図である。図 3 の

50

おむつ 10 については、説明の便宜上、部分的に破断した状態を示している。

【0019】

図 2 に示すように、本実施形態におけるおむつ 10 は、外側から順に、良好な手触りを得るために不織布にて形成されるカバーシート 11 と、液不透過性を有するバックシート（裏面シート）12 と、吸収体 13 と、液透過性を有するトップシート（表面シート）14 と、疎水性（または液不透過性）のシート部材で構成された一対の立体ギャザー（サイドシート）15 とを重ねた積層構造を有しているものである。図 2 の吸収体 13 については、説明の便宜上、部分的に破断した状態を示している。カバーシート 11 の股下領域 10C の左右両側には、それぞれ脚周り開口部 10L となる一対の切欠き部 11N が形成されている。

10

【0020】

バックシート 12 は、カバーシート 11 に接着され、吸収体 13 は、このバックシート 12 とトップシート 14 との間に配され、この吸収体 13 を介してトップシート 14 がバックシート 12 に接合される。立体ギャザー 15 の外側部分（図 3 中、左右両側）は、カバーシート 11 の左右両側に重ね合わされ、バックシート 12 およびトップシート 14 の左右両側縁部と、カバーシート 11 とに対してそれぞれ一体的に接合される。また、本実施形態においては、トップシート 14 の左右両側に覆い重なる左右一対の立体ギャザー 15 の内側部分（図 3 中、中央側）がトップシート 14 に対して非接合状態となっている。

【0021】

また、バックシート 12 のうち、後身頃領域 10R の上端部に対応する領域には、カバーシート 11 の幅方向に沿って延在し、着用者に対してウエスト周りに適度な着用感を与えるための弾性シート 10D が接合されている。カバーシート 11 と一対の立体ギャザー 15 との間には、脚周りギャザーを形成するための一対の弾性部材 16 がそれぞれ伸張状態で接着されている。

20

【0022】

トップシート 14 の下に位置する本実施形態の吸収体 13 は、主にバルブと高吸水性樹脂（Super Absorbent Polymer、以下「SAP」とも言う）とからなる吸収性本体 17 を、ティッシュや不織布等で構成されるコアラップなどの被覆部材 18 によって包んだものである。本実施形態では、吸収性本体 17 を被覆部材 18 により包むことで形成される継ぎ目は、図 2 に示すように、吸収体 13 の上面であって長手方向に延びるように形成されるが、これに限られず、本発明では、例えば、吸収体 13 の下面に形成されてもよい。本実施形態の吸収体 13 は、前身頃、股下、後身頃に亘るように、細長い形状をしている。ここで、前身頃部分から後身頃部分を前後（上下）方向とし、それに直交する方向を左右方向とすると、本実施形態の吸収体 13 は、前後（上下）左右の長さが異なる矩形のものである（図 2 では、前後（上下）の長さが左右の長さより長くなっている）。なお、本実施形態の吸収体 13 の形状はこれに限らず、例えば、前後（上下）左右の長さが同程度の略正方形のもの、前後（上下）端の角が丸く落とされているもの、前後（上下）に延びる楕円形のもの、円形のものなど、さまざまな形状を含む。また、吸収体 13 の股下部分には、一対の脚周り開口部 10L に対応するように、円弧状をなす一対の切欠き部が形成されても良い。

30

40

【0023】

一対の立体ギャザー 15 は、上述したように疎水性（または液不透過性）のシート部材により構成され、本実施形態では、1 枚の当該シート部材を変形（例えば、分岐や折り返し）することによってそれぞれ形成される（後述する図 4 を参照）。一対の立体ギャザー 15 は、図 3 に示すように、吸収体 13 の長手方向に沿って設けられている。本実施形態では、立体ギャザー 15 において、吸収体 13 の長手方向に延びる両側縁部のうち、一方の側縁部は略直線形状を呈し、他方の側縁部には、股下付近に切欠き部 15N が形成されている。上述のように、一対の立体ギャザー 15 の内側部分がトップシート 14 に対して非接合状態となっており、立体ギャザー 15 は、その略直線形状の側縁部に自由端を含む。

50

【 0 0 2 4 】

立体ギャザー 15 の自由端側には、図 3 に示すように、引っ張り力を作用する弾性部材（例えば、糸ゴム）19 が吸収体 13 の長手方向に沿って伸張状態で配置されている。弾性部材 19 は、立体ギャザー 15 のシート部材で挟まれている。一对の立体ギャザー 15 は、この弾性部材 19 により、着用状態において吸収体 13 の両側縁部に沿って起立可能となる。また、本実施形態では、立体ギャザー 15 は、その自由端側が相互に分岐して形成される第 1 の先端縁部 15 a および第 2 の先端縁部 15 b を有する。第 1 の先端縁部 15 a および第 2 の先端縁部 15 b の詳細については図 4 から図 6 を用いて後述する。

【 0 0 2 5 】

< 相互に分岐して形成される 2 つの先端縁部 >

10

図 4 および図 5 は本発明の一実施形態に係る、立体ギャザー 15 の模式的な断面図であり、図 4 は図 3 における I V - I V 線断面図、図 5 は図 3 における V - V 線断面図をそれぞれ示す。また、図 6 は、第 1 の接着部 21 a を介して接着する前の第 1 の先端縁部 15 a および第 2 の先端縁部 15 b を垂直に起立させたときの長さの相互関係について説明するための図であり、図 4 中の左側の断面形状に対応するものである。尚、説明の簡略化のため、図 4 ではカバーシート 11 および被覆部材 18 の継ぎ目の記載を省略しており、図 5 ではカバーシート 11 およびフロントパッチシート 10 B の記載を省略している。

【 0 0 2 6 】

立体ギャザー 15 の自由端は、図 4 に示すように、第 1 の先端縁部 15 a と第 2 の先端縁部 15 b とに分岐している。第 2 の先端縁部 15 b は、吸収体 13 側からみて第 1 の先端縁部 15 a より外側に分岐しており、第 1 の先端縁部 15 a より長い。第 1 の先端縁部 15 a および第 2 の先端縁部 15 b は、吸収体 13 の長手方向に沿ってそれぞれ延びている。第 1 の先端縁部 15 a には、弾性部材 19 が当該長手方向に沿って配置される。弾性部材 19 は、第 1 の先端縁部 15 a のシート部材で挟まれている。一方、第 2 の先端縁部 15 b のうち少なくとも着用者の肌に接触可能な部位には、弾性部材が配置されていない。第 1 の先端縁部 15 a および第 2 の先端縁部 15 b は、第 1 の先端縁部 15 a のうち弾性部材 19 を挟んだ部分と着用者の肌とで、第 2 の先端縁部 15 b を挟むようにそれぞれ構成されている。

20

【 0 0 2 7 】

本実施形態では、第 2 の先端縁部 15 b には、第 2 の先端縁部 15 b を折り返す折り返し部 20 が設けられる。折り返し部 20 は、図 4 に示すように、第 1 の先端縁部 15 a のうち弾性部材 19 を挟んだ部分を第 2 の先端縁部 15 b で挟むように構成される。

30

【 0 0 2 8 】

また、立体ギャザー 15 には、第 2 の先端縁部 15 b と立体ギャザー 15 とが重なる部分の少なくとも一部を接着する第 1 の接着部 21 a が設けられる。ここで「接着」は、例えば、ヒートエンボス加工、超音波、接着剤の使用やホットメルトのいずれか一つ、また、これらを組み合わせることによって行われることが可能である。また、「少なくとも一部を接着」とは、例えば、当該重なる部分の半分または全域を接着したり、吸収体 13 の長手方向に亘って当該重なる部分を間欠的に接着したりすることを表す。本実施形態では、第 2 の先端縁部 15 b は、図 4 に示すように、第 1 の先端縁部 15 a のうち弾性部材 19 を挟んだ部分を包むように、第 1 の先端縁部 15 a の先端付近に第 1 の接着部 21 a を介して接着されている。

40

【 0 0 2 9 】

従来、弾性部材が配される立体ギャザーの先端部による肌の締め付けに対し、立体ギャザーの先端を延出させて延出部分を形成することで、その締め付けの低減を図ったものが知られている。しかしながら、その延出部分は、着用者の動きに伴いそれぞれ異なる方向に移動する結果、着用者の肌に対して一定の位置を維持することが出来ない結果、フィット感が悪化し、立体ギャザーとして機能しない場合があった。

【 0 0 3 0 】

本実施形態では、第 1 の先端縁部 15 a のうち弾性部材 19 を挟んだ部分が、第 2 の先

50

端縁部 15 b を介して着用者の肌にフィットするように接触することになる。そのため、立体ギャザー 15 の先端縁部が異なる方向に移動することが抑止され、肌に対して立体ギャザー 15 の先端部が一定の位置を維持しうる。よって、フィット感を向上させることが可能となり、また、弾性部材 19 が複数のシート部材によって覆われるため、着用者の肌に対する締め付けを低減することが可能となる。

【0031】

本実施形態では、第 1 の接着部 21 a により、第 1 の先端縁部 15 a および第 2 の先端縁部 15 b が一体化し、弾性部材 19 が複数のシート部材によって覆われた状態で立体ギャザー 15 の先端部が一塊となる。よって、着用者の肌に一塊のシート部材が接する結果、肌に対して立体ギャザー 15 の先端部が一定の位置をさらに維持することができるため、フィット感を一層向上させることが可能となる。また、この一塊のシート部材が吸収体 13 に対して内側を向いたとき、液体に対する堰き止めとしても機能するため、本実施形態の構成により、防漏性を強化することも可能となる。なお、第 1 の接着部 21 a が当該重ねる部分の全域を接着した場合、第 1 の先端縁部 15 a と第 2 の先端縁部 15 b とがさらに一体化されるため、フィット感および防漏性をさらに向上させることが可能になる。

【0032】

図 5 に移り、本実施形態では、立体ギャザー 15 の先端部は、トップシート 14 に対して接着されている。本実施形態では、第 2 の先端縁部 15 b の先端部が、トップシート 14 に対し第 2 の接着部 21 b を介して接着される。すなわち、おむつ 10 は、立体ギャザー 15 の吸収体 13 の長手方向の端部において、一对の立体ギャザー 15 の対向する面（第 2 の先端縁部 15 b の先端部の面）と、トップシート 14 と、を接着する第 2 の接着部 21 b を有している。

【0033】

第 2 の接着部 21 b により、着用状態で、図 4 に示すような立体ギャザー 15 の起立可能な領域において、一体となった第 1 の先端縁部 15 a および第 2 の先端縁部 15 b が吸収体側に向くように付勢されるため、防漏性を強化するという効果が安定して発揮されることになる。また、第 2 の接着部 21 b を設けない態様よりも、肌に対して立体ギャザー 15 の先端部が一定の位置を維持することができるため、フィット感を向上させることが可能となる。

【0034】

図 6 に示すように、吸収体 13 の長手方向に直交する断面において、第 1 の先端縁部 15 a と第 2 の先端縁部 15 b とが分岐する分岐点から第 2 の先端縁部 15 b の先端までの距離 L は、当該分岐点から第 1 の先端縁部 15 a の先端までの距離 M よりも長いものとなっている。本発明者は、 $L : M = 1 : n$ の関係式が成立するとき、数値 n が約 0.40 以上約 0.85 以下であることが、本発明の効果を発揮する上で好ましいことを発見した。

【0035】

<変形例>

本発明は、上述した実施形態に限られることなく、本発明の技術的思想から逸脱しない範囲で、適宜の変更や変形が可能である。

【0036】

例えば、上記実施形態に係るおむつの構造は、上述したような展開型に限定されるわけではなく、特許請求の範囲に規定された吸収性物品の構成を含むおむつでありさえすれば、どのような構成であってもよい。例えば、パンツ型の使い捨ておむつや、尿パッドなどであっても本発明を適用可能である。

【0037】

加えて、上記実施形態では、弾性部材 19 は、立体ギャザー 15 が接着される領域において配置されていないがこの限りではなく、本発明では、例えば、当該領域において第 1 の先端縁部 15 a に弾性部材 19 を配置してもよい。また、第 1 の先端縁部 15 a に配置する弾性部材 19 の数を 2 以上としてもよい。

【0038】

さらに、上記実施形態では、第１の先端縁部１５ａのみに弾性部材１９が配置されているがこの限りではなく、本発明では、第２の先端縁部１５ｂにおいても、シート部材で挟まれるように、吸収体１３の長手方向に沿って配置される弾性部材をさらに有してもよい。この場合、上述したように、少なくとも着用者の肌に接触可能な部位には、弾性部材が配置されないようにする。この構成により、第１の先端縁部１５ａの先端部に配置された弾性部材１９と、第２の先端縁部１５ｂの先端部に配置された弾性部材と、が一体となって肌に接触したときに、肌に対する接触面積を広げることが可能となるため、肌に対する締め付けを低減することが可能となる。

【００３９】

また、上記実施形態では、図４に示した立体ギャザー１５の形状に限られず、本発明では、以下のような変形例も含みうる。

【００４０】

図７は、立体ギャザー１５の断面形状の例を示す図であり、図４中の左側の断面形状に対応するものである。図７（ａ）は立体ギャザー１５の自由端側を分岐させ且つ折り返したものの、図７（ｂ）は立体ギャザー１５の自由端側を分岐させたものの、図７（ｃ）は立体ギャザー１５の自由端側を折り返して巻き込んだものをそれぞれ表す。図７（ａ）は上記実施形態と同様の形状である。

【００４１】

上記実施形態、つまり、図７（ａ）に示す立体ギャザー１５では、第１の先端縁部１５ａより第２の先端縁部１５ｂの方が長く、第２の先端縁部１５ｂに折り返し部２０が設けられているが、図７（ｂ）に示すように、第１の先端縁部１５ａと第２の先端縁部１５ｂとの長さが略等しく、立体ギャザー１５に折り返し部２０を設けないものであってもよい。要は、第１の先端縁部１５ａおよび第２の先端縁部１５ｂが、第１の先端縁部１５ａのうち弾性部材１９を挟んだ部分と着用者の肌とで、第２の先端縁部１５ｂを挟むようにそれぞれ構成されればよい。なお、当該変形例では、第１の先端縁部１５ａと第２の先端縁部１５ｂとが対向する面を接着してもよい。これにより、第１の先端縁部１５ａと第２の先端縁部１５ｂとが一体化されるため、上記実施形態と同様に、フィット感を向上させることが可能になる。

【００４２】

また、上記実施形態では、立体ギャザー１５の自由端側が分岐しているが、図７（ｃ）に示すように、立体ギャザー１５の自由端側を分岐させず、折り返して巻き込む態様であってもよい。この変形例では、折り返し部２０は、立体ギャザー１５のうち弾性部材１９を挟んだ部分と着用者の肌とでシート部材を挟むように、且つ、挟んだ部分をシート部材でさらに挟むように、立体ギャザー１５の自由端側を折り返す。この態様により、立体ギャザー１５のうち弾性部材１９を挟んだ部分がシート部材によって包まれるので、上記実施形態と同様に、吸収性物品のフィット感を保持しつつ、着用者の肌に対する締め付けを低減することが可能となる。また、この立体ギャザー１５の先端部が吸収体１３に対して内側を向いたとき、上記実施形態と同様に、防漏性を強化することも可能となる。なお、当該変形例では、立体ギャザー１５の自由端側のうち立体ギャザー１５を折り返したときに重なる部分の少なくとも一部を接着する第１の接着部２１ａをさらに有してもよい。

【００４３】

本発明では、立体ギャザーは、勿論、上述した形状に限られるものではなく、種々の形状を採用することが可能である。例えば、立体ギャザー１５の自由端側を分岐する数を３以上にしたり、上述した各形状を組み合わせたりしてもよい。また、立体ギャザー１５の先端部の向きを逆にする、つまり、図７（ａ）を例に挙げると、第１の先端縁部１５ａを吸収体１３から見て第２の先端縁部１５ｂより外側に分岐させてもよい。

【符号の説明】

【００４４】

１０ おむつ

１０Ａ ファスニングテープ

10

20

30

40

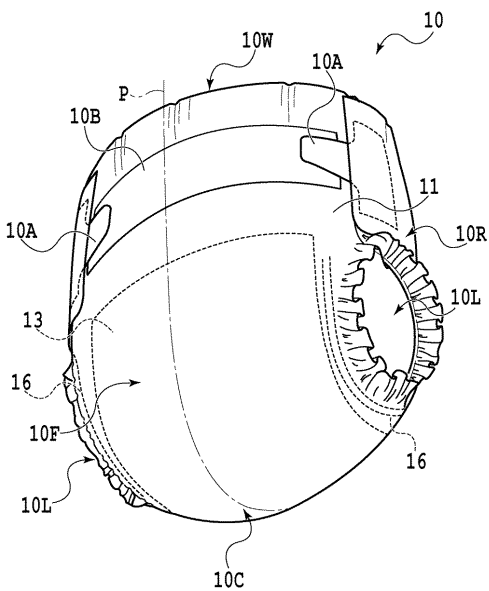
50

- 10B フロントパッチシート
- 10F 前身頃領域
- 10R 後身頃領域
- 10C 股下領域
- 10W ウエスト周り開口部
- 10L 脚周り開口部
- 11 カバーシート
- 11N、15N 切欠き部
- 12 バックシート
- 13 吸収体
- 14 トップシート
- 15 立体ギャザー
- 15a 第1の先端縁部
- 15b 第2の先端縁部
- 16、19 弾性部材
- 17 吸収性本体
- 18 被覆部材
- 20 折り返し部
- 21a 第1の接着部
- 21b 第2の接着部

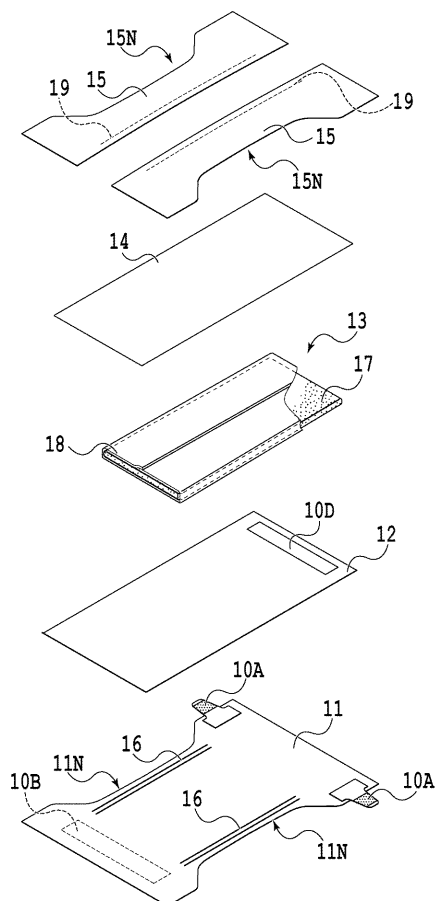
10

20

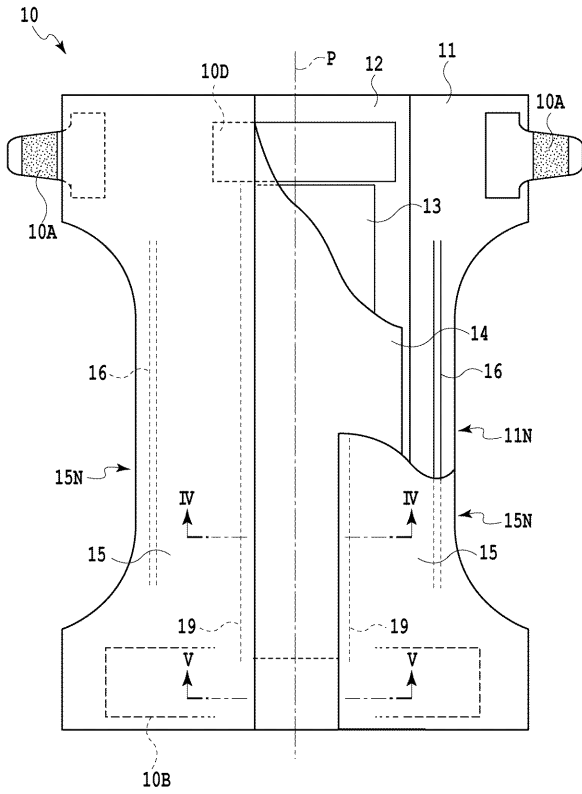
【図1】



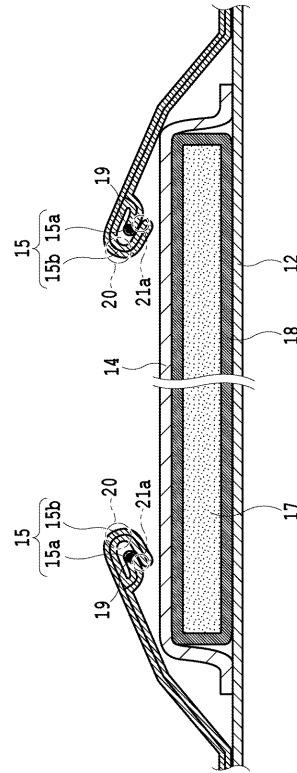
【図2】



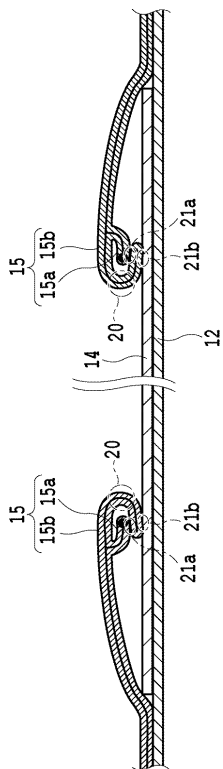
【図 3】



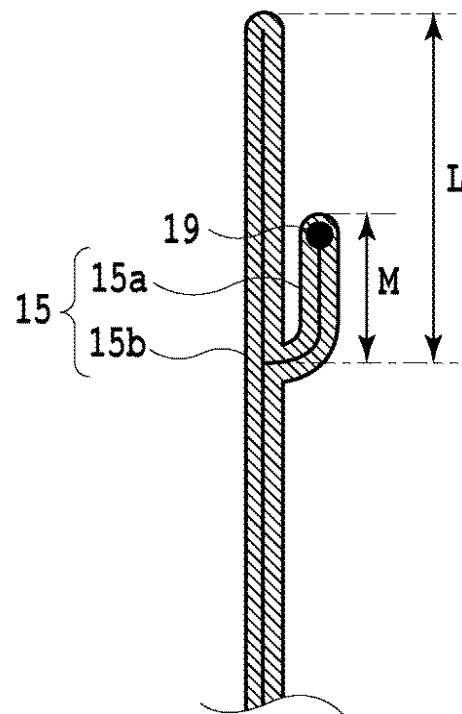
【図 4】



【図 5】



【図 6】



【 図 7 】

